

事務事業名 ちくしの歴史・文化発信事業

出力日：令和07年03月18日

キーコード：694

施策：	21	歴史・文化の継承と振興	財務コード	01090608-03-570
基本事業：	03	歴史学習の機会提供	担当部	教育部
基本事業の成果指標	歴史・文化に関する学習会等に参加した市民の数 歴史・文化に関する体験学習等に参加した児童・生徒の数		担当課	文化財課
			担当係	博物館担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～			新規・継続	継続	会計区分		実施計画		
1．対象（誰、何に対して事業を行うのか）				2．手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
市民、在勤・通学者、福岡都市圏住民 教育・研究機関 歴史、文化・芸術関係団体				○常設展は通年展示しており、古くから交通の要衝としてさまざまな人やモノの交流があった本市の特徴を生かして「交易と旅」をテーマとし、原始から近代に至る「通史」を展示 ○企画展は3回実施 国史跡指定10年記念「宝満山」 古文書からの伝言其の四「旅のガイドは木版画」展 筑紫野市のうつりかわり展 ○ロビー展示は8回実施「宝満山から英彦山へ」「詩人安西均」他 ○学習支援は、主催講座・イベント30回実施、小学校や地域等への職員の派遣25件、博物館ボランティアの活動支援、SNSを活用した「Memoriesちくしの」(X:旧Twitter)による学習情報の発信、小学校への昔の道具の貸出、パッケージ資料の製作と貸出を実施						
3．意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）				○ロビー展示は8回実施「宝満山から英彦山へ」「詩人安西均」他						
地域への理解を深め、市民の自治能力の向上を図ります。 市民に対し、学習意欲の喚起を促し、地域学習の推進を図ります。 市の施策・事業や市民活動に対し、資料提供、助言を行なうとともにこれを支援します。 学校教育に対し資料提供、並びに教育支援を行います。				○学習支援は、主催講座・イベント30回実施、小学校や地域等への職員の派遣25件、博物館ボランティアの活動支援、SNSを活用した「Memoriesちくしの」(X:旧Twitter)による学習情報の発信、小学校への昔の道具の貸出、パッケージ資料の製作と貸出を実施						
4．成果（簡易評価は未記入）										
成果指標名称			単位	04年度 実績	05年度 実績	06年度 当初	07年度 要求	08年度 計画	09年度 計画	目標
問い合わせへの学習支援数			回	362	619	300	300			
来館者数			人	11,088	13,808	12,000	12,000			
5．コスト										
事業費			計	千円	1,870	1,492	1,939	1,835		
			国	千円	0	0	0	0		
			県	千円	0	0	0	0		
			地方債	千円	0	0	0	0		
			その他	千円	0	0	0	0		
			一般	千円	1,870	1,492	1,939	1,835		
正職員人工数			人工	1.5	1.5	1.4				
正職員人件費			千円	11,592	11,723	11,232				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)			千円	13,462	13,215	13,171	1,835			
6．成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）										
●あがっている ○どちらかといえばあがっている ○あがっていない（停滞・低下）		令和5年度は、企画展3回、ロビー展8回を実施しました。近隣では珍しい古文書の展示も4回目を実施できました。また国史跡「宝満山」が指定から10年を迎えたことを記念し霊山宝満山を学ぶ機会として、企画展、ロビー展、記念講座を実施しました。新型コロナウイルス感染症が第5類になったことから、小学校の昔の道具体験を博物館で再開し、併せてコロナ禍に開始した昔の道具の貸出も継続し、学校の事情に応じた学習支援を行いました。SNSで学ぶ歴史と文化事業については4年目を迎え、郷土の民俗を発信する「Memoriesちくしの」(Xによる学習情報の発信)の実施、また2年目となる文化財課職員による歴史講座も内容を充実させて全9回を実施しました。展示、講座等を実施し、年間を通じて郷土の歴史や文化を学ぶ機会を提供することができました。								
7．評価及びコメント（簡易評価は未記入）										
対象動向	維持	類似事業	なし	収蔵資料に精通し、多分野の資料を適正に取扱い、企画展や学習支援が行える博物館学芸員が不在である。また、近世～明治期にかけての文書・古記録を多く有する本市において、それらの目録作成及び活用ができる博物館職員が必要である。収蔵資料の活用、学習の機会提供を継続して行なうためには、専門の知識を有した正規の学芸員の配置が必要である。						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし							
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり							
成果向上余地	大きい									
8．改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				■改善方向性 ●維持 ○見直し ○廃止 ○事業終了						
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）										
常設展については、開館から26年を経過し、映像機器、照明機器及び展示設備に老朽化による不具合が生じ、見学に支障が出ています。常設展のリニューアルに向け検討が必要です。				博物館を含む文化財課のホームページをリニューアルし、来館しなくても様々な情報や学習情報を提供できる環境を整えることで、市民の歴史学習の機会を得るための選択肢が増え、また利便性が高まると考えます。リニューアルに向け検討が必要です。当面は、SMSを利用した学習情報の発信や貸出資料のパッケージ化などを今後も検討を重ね進めていきたい。						
■事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）				■備考・特記事項 or 進行管理欄						
これまで、企画展示や講座等を行い博物館が郷土の歴史や文化について発信することが主であった。近年は、地域のコミュニティが地元の歴史や文化について積極的に事業を展開しており、その支援を行うことが増えている。										

事務事業名 資料収集保管事業

出力日：令和07年03月18日

キーコード：695

施 策：	21	歴史・文化の継承と振興	財務コード	01090608-04-571
基本事業：	03	歴史学習の機会提供	担当部	教育部
基本事業の 成果指標	歴史・文化に関する学習会等に参加した市民の数 歴史・文化に関する体験学習等に参加した児童・生徒の数		担当課	文化財課
			担当係	博物館担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～			新規・継続	継続	会計区分	実施計画		
1．対象（誰、何に対して事業を行うのか）				2．手段（事務事業の内容、やり方、手順）					
市民や市外住民 教育・研究機関 団体・グループ				市民の財産である郷土の文化財を収集し、恒久的な保存を図ります。 収蔵された資料の活用を図るため、整理作業（目録の作成や台帳の整備）を行います。 市民の学習や社会活動に必要な歴史・文化資料を収集し、資料を活用できる状態に整理・整備を行います。 貴重なもの、状態が悪いものは、修復やレプリカを製作し保存・活用を図ります。 文化財IPM（総合的有害生物管理）に基づく日常管理を行い、資料を適切に保管します。					
3．意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）									
資料を収集し、適切に保存・管理を行い、貴重な文化財を後世に伝えていきます。また、整理及び修復を行い活用できる状態にします。									
4．成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	04年度 実績	05年度 実績	06年度 当初	07年度 要求	08年度 計画	09年度 計画	目標
収蔵点数		点	246,389	250,295	253,000	255,000			
活用点数		点	1,115	1,344	1,000	1,000			
5．コスト									
事業費		計	千円	772	1,022	1,577	1,081		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0	0		
		一般	千円	772	1,022	1,577	1,081		
正職員人工数		人工	0.3	0.3	0.2				
正職員人件費		千円	2,318	2,345	1,605				
トータルコスト(事業費＋正職員人件費)		千円	3,090	3,367	3,182	1,081			
6．成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
●あがっている ○どちらかといえばあがっている ○あがっていない（停滞・低下）		大賀禮太郎家文書の整理については令和5年度は約5107点の目録を作成しました。（R01:3000点、R02:4200点、R03:4770点、R04:3825点）その成果は秋季企画展で広く市民に公開しています。（R02年度～）収蔵資料については、保存すべき資料と貸出資料として学習支援に活用するものを区分し、寄贈時など適時精査を行っています。またパッケージ資料を製作し貸出資料の充実を図っています。総合的有害生物管理（IPM）に基づき、モニタリング結果を検証し、日常清掃に反映させ博物館の適正な環境管理を行い、虫の食害から収蔵文化財を守っています。収蔵資料については計画的に整理し適正な保管を進めています。郷土資料の収集については、収蔵スペースに限りがあるため、文化財としての価値を慎重に判断しながら進めています。							
7．評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし	郷土の歴史・文化を継承する上で必要不可欠な資料を収集し、考古、民俗、歴史、美術、地図・絵図、映像、音響、自然、図書、学芸参考の10分類を行い、博物館資料検索システムにより管理しています。最大の課題は、資料を適正に整理・管理できる、経験があり資料に精通した博物館学芸員が不在であることです。今後、資料の受入れや整理、適正な管理に支障がでる恐れがあります。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり						
成果向上余地	大きい								
8．改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				■改善方向性		●維持 ○見直し ○廃止 ○事業終了			
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
古文書に特化した展示会を開催している近隣の市町はなく、古文書は本市の目玉となる資料の一つです。業務に精通した博物館学芸員を設置することで、今後も継続して整理を行い成果を公開することができます。				館内の温湿度管理については、既存のシステムが数年前から故障しており、現在、職員が巡回し記録しています。常設展示室内の特に細かな温湿度管理が必要なものについては、部分的に観測機器を設置し温湿度管理をしています。適正な展示・保存環境の維持のため温湿度管理システムの更新が必要です。					
■事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）				■備考・特記事項 or 進行管理欄					
地域の歴史・文化の学習、市民活動に供するため、資料を収集し、適切に保存・管理しています。 都市化により、文化遺産は失われつつある一方、市民の地域文化に対する意識は高まり、文化財・文化遺産等の資料や情報の提供要望が増えています。									

施 策：	21	歴史・文化の継承と振興	財務コード	01090608-07-572
基本事業：	03	歴史学習の機会提供	担当部	教育部
基本事業の 成果指標	歴史・文化に関する学習会等に参加した市民の数 歴史・文化に関する体験学習等に参加した児童・生徒の数		担当課	文化財課
			担当係	博物館担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成13年度	～	新規・継続	継続	会計区分		実施計画		
1．対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2．手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
市内外からの見学者			国史跡五郎山古墳及び古墳館における下記の事業を行い、学習の場としての適切な公開活用を図るとともに、見学者等の学習要求に応え、館の運営を行います。開館時間（9:00～17:00、月曜日休館）、入館料無料 古墳の出土資料等の見学・学習映像の視聴 可動式実物大模型による古墳石室体験・細部見学 タッチパネルによる装飾古墳の学習 学校休期間における装飾古墳等に関するイベントの実施（ストローを管玉に見立てたアクセサリー、壁画の文様を貼る菜の作成他） ストーンアートについては博物館で実施 小学校等の団体見学 装飾古墳関係図書閲覧・解説パンフレット（多言語）等の提供						
3．意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）									
五郎山古墳をはじめ、九州の特徴でもある装飾古墳への公開活用を行い、地域の歴史・文化の学習意欲を喚起し、地域の歴史文化に対する理解を深めます。									
4．成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	04年度 実績	05年度 実績	06年度 当初	07年度 要求	08年度 計画	09年度 計画	目標
来館者数		人	3,797	4,410	4,500	5,000			
装飾古墳アートイベント参加者		人	708	795	700	700			
5．コスト									
事業費	計	千円	7,680	8,530	9,686	10,750			
	国	千円	0	0	0	0			
	県	千円	0	0	0	0			
	地方債	千円	0	0	0	0			
	その他	千円	0	0	0	0			
	一般	千円	7,680	8,530	9,686	10,750			
正職員人工数		人工	0.4	0.3	0.2				
正職員人件費		千円	3,091	2,345	1,605				
トータルコスト(事業費＋正職員人件費)		千円	10,771	10,875	11,291	10,750			
6．成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
○あがっている ●どちらかといえばあがっている ○あがっていない（停滞・低下）		令和5年度の来館者数は4410人で昨年度の3797人と比べ613人増加しました。特に子どもが930人から1424人と494人増となりました。新型コロナウイルス感染症が第5類になったことで、小学校の受入れが可能となり、近隣の3校の来館があったことなどが入館者増に繋がったと考えます。しかし石室保護のため石室一般公開の中止や（H30：215人）、タッチパネルを2基設置したことにより従来のイベントスペースが確保できない（現在6席のみ）ため、以前の入館者数には及びません。イベント以外の入館者数を増やすため、PRチラシの製作に加えて、博物館でのストーンアートの実施、パープルブラザフェスタで五郎山古墳ブース設置するなど（R04～）、古墳館の利用促進を図るための事業を展開しています。							
7．評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし	地域の歴史文化の理解を深め、学習意欲を喚起していくことを目的とした学習施設（五郎山古墳ガイダンス施設、市歴史博物館分館）と位置づけをしており、利用料については無料としています。さらなる入館者増を図るためには、石室一斉公開にかわる五郎山古墳（館）での新たなイベントの検討が今後必要と考えます。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								
8．改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				■改善方向性 ●維持 ○見直し ○廃止 ○事業終了					
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
市内在住者の来館を増やすためには、地元の原田地区以外の地域での認知を高めることが必要だと感じます。今後も継続して博物館でストーンアート等の体験イベントの実施や、パープルブラザフェスタで五郎山古墳ブースを設置するなど、広く市民に装飾古墳の魅力を伝え、古墳館への来館を促したい。									
■事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）				■備考・特記事項 or 進行管理欄					
平成13年度開館。 平成28～令和元年度 保存整備事業を実施。 （古墳館の映像設備等の改修は令和元年度に実施） 令和3年5月18日で開館20周年				石室保護のため、令和2年度から実物古墳石室の一般公開を中止					

事務事業名 ちくしの子ども劇場補助事業

出力日：令和07年03月18日

キーコード：608

施策：	21	歴史・文化の継承と振興	財務コード	01090608-09-574
基本事業：	04	文化・芸術活動の推進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	子育て世代の親子を対象とした文化・芸術鑑賞に関するイベント参加者数 文化会館を拠点とした文化・芸術鑑賞に関するイベント参加者数		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	文化振興・図書館担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～			新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画	
1．対象（誰、何に対して事業を行うのか）				2．手段（事務事業の内容、やり方、手順）					
ちくしの子ども劇場				<概要> ちくしの子ども劇場は、昭和55年に福岡子ども劇場から独立、平成13年にNPO 法人となった。文化芸術活動、自然体験、異年齢集団遊びなどを通して、地域の中で子どもたちがいきいきとした子ども時代を過ごせる環境づくりを目指して活動する団体である。 <主な事業> 子ども市、子どもキャンプ、地域活動、子どものための優れた舞台芸術に関する事業、表現活動に関する事業、子どもの権利条約普及啓発事業、子育て支援 <補助対象事業> 社会教育振興事業補助金として、子どものための優れた舞台芸術に関する事業に対し交付している。					
3．意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）				子ども市、子どもキャンプ、地域活動、子どものための優れた舞台芸術に関する事業、表現活動に関する事業、子どもの権利条約普及啓発事業、子育て支援 <補助対象事業> 社会教育振興事業補助金として、子どものための優れた舞台芸術に関する事業に対し交付している。					
対象の事業を推進し、子どもたちの文化芸術への関心を高め、文化芸術活動への参加意欲を喚起する。さらには、子どもたちが、文化芸術に触れることで、豊かな感受性を育まれることを目指す。									
4．成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	04年度 実績	05年度 実績	06年度 当初	07年度 要求	08年度 計画	09年度 計画	目標
補助対象事業への参加人数		人	1,218	1,304	1,500	1,500			2,200
5．コスト									
事業費	計	千円	100	100	100	100			
	国	千円	0	0	0	0			
	県	千円	0	0	0	0			
	地方債	千円	0	0	0	0			
	その他	千円	0	0	0	0			
	一般	千円	100	100	100	100			
正職員人工数		人工	0.1	0.1	0.1				
正職員人件費		千円	773	782	802				
トータルコスト(事業費＋正職員人件費)		千円	873	882	902	100			
6．成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
○あがっている ●どちらかといえばあがっている ○あがっていない（停滞・低下）		<状況>補助対象事業については、昨年度と比べて1公演少なかった<R4/11公演：R5/10公演>が、参加人数は増加している。 <原因>昨年度より1公演減である10公演の実施となったが、コロナ禍の影響がなくなってきたことから、参加者は昨年度より増加している。 <成果指標>令和6年度は、コロナ禍以前の参加人数を考慮し、令和5年度実績に約10%を加えた目標とした。							
7．評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし	子どもたちの発達に沿った生の舞台公演をはじめ、地域活動を実施。子どもたちの芸術に親しむ機会を提供し、親子で芸術文化活動への参加意欲を高めた。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	なし						
成果向上余地	中程度								
8．改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				■改善方向性		●維持 ○見直し ○廃止 ○事業終了			
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
<改革案> 平成29年度から補助対象事業を舞台芸術鑑賞に関する事業とし、その参加状況を成果指標とした。団体予算に対する補助事業の割合は約43%を占めるため、今後も参加者の減少が進めば補助対象事業の縮小が懸念される。開催頻度や舞台の質を維持するために、補助金を有効活用したい。				<必要性> 優れた芸術家を安価で招くなど、プロデュースは県下の子ども劇場随一と言われており、文化施設からも高い評価を得ている。チャリティーコンサートでは、文化会館を満席にした実績がある。本市の文化芸術振興には欠かせない団体である。					
■事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）				■備考・特記事項 or 進行管理欄					
平成13年「子どもたちが地域の中で、豊かに生き生きとした子ども時代を過ごすための環境づくり」を目指し法人として設立された。				小学校への芸術家派遣事業（アウトリーチ）を検討する中で、芸術家と学校との調整を行うコーディネーターの役割を担ってもらいたいと考えている。					

事務事業名 市文化協会補助事業

出力日：令和07年03月18日

キーコード：622

施 策：	21	歴史・文化の継承と振興	財務コード	01090608-10-575
基本事業：	04	文化・芸術活動の推進	担当部	教育部
基本事業の 成果指標	子育て世代の親子を対象とした文化・芸術鑑賞に関するイベント参加者数 文化会館を拠点とした文化・芸術鑑賞に関するイベント参加者数		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	文化振興・図書館担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和59年度 ~			新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画		
1．対象（誰、何に対して事業を行うのか）				2．手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
筑紫野市文化協会				<概要> 筑紫野市文化協会は、昭和59年の設立以来、文化団体相互の交流・育成を図りつつ、広く市民に文化芸術の振興と本市における文化意識の高揚を目的とする団体である。 <主な事業> 「ちくしの芸術祭」の主催、福岡 ブロック(筑紫地区および糸島市)「芸術の祭典」への参加、先進地視察研修 <補助対象事業> 社会教育振興事業補助金として、広く市民が芸術に触れる機会である「ちくしの芸術祭」に対し交付している。						
3．意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）										
・筑紫野市文化協会への加盟団体が増加し、市民の芸術文化事業が盛んになる。 ・安定した運営がおこなわれる。 ・次世代を担う人材が育成され、未来に渡り文化団体の活動が継続している。										
4．成果（簡易評価は未記入）										
成果指標名称			単位	04年度 実績	05年度 実績	06年度 当初	07年度 要求	08年度 計画	09年度 計画	目標
加盟文化団体数			組織	35	37	38	38			38
「ちくしの芸術祭」への参加人数			人	1,424	2,668	2,000	2,700			2,700
5．コスト										
事業費			計	千円	200	200	200	200		
			国	千円	0	0	0	0		
			県	千円	0	0	0	0		
			地方債	千円	0	0	0	0		
			その他	千円	0	0	0	0		
			一般	千円	200	200	200	200		
正職員人工数			人工	0.1	0.1	0.1				
正職員人件費			千円	773	782	802				
トータルコスト(事業費＋正職員人件費)			千円	973	982	1,002	200			
6．成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）										
○あがっている ●どちらかといえばあがっている ○あがっていない（停滞・低下）			<状況>前年度と比較し加盟団体数は2団体増加し、「ちくしの芸術祭」への参加人数は1,244人増加している。 <原因>文化協会が団体の加入促進を行ったことや、コロナ禍以前に近い形での「ちくしの芸術祭」を実施できたことにより、加盟文化団体数の増加、「ちくしの芸術祭」への参加人数の増加に繋がった。							
7．評価及びコメント（簡易評価は未記入）										
対象動向	維持	類似事業	なし	会員の高齢化等により、次世代への育成を図る必要がある。						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし							
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり							
成果向上余地	中程度									
8．改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				■改善方向性		●維持 ○見直し ○廃止 ○事業終了				
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）										
令和5年度に新たな事業として、市役所ギャラリーでの「美術学芸展」を開催した。「ちくしの芸術祭」と併せて、継続的な実施を行う必要がある。また、市民が文化・芸術に触れる新たな機会を創設する必要があると思われる。										
■事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					■備考・特記事項 or 進行管理欄					
昭和59年の文化会館建設時に関係団体として申請し、芸術文化の振興・育成のために補助を開始した。 加盟団体の会員だけでなく、多くの市民が芸術文化に親しむことができるような事業や行事の実施が望まれている。										

事務事業名 人形劇のあるまち推進事業

出力日：令和07年03月18日
キーコード：1070

施 策：	21	歴史・文化の継承と振興	財務コード	01090608-11-576
基本事業：	04	文化・芸術活動の推進	担当部	教育部
基本事業の 成果指標	子育て世代の親子を対象とした文化・芸術鑑賞に関するイベント参加者数 文化会館を拠点とした文化・芸術鑑賞に関するイベント参加者数		担当課	文化・スポーツ振興課
			担当係	文化振興・図書館担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成15年度～			新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）				2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
ちくしの人形劇まつり実行委員会				平成15年度のプレ国民文化祭を契機に始めた事業である。人形劇の観劇を通して、子どもたちの感性を育むため、子どもに関する団体や劇団を中心に実行委員会を組織し開催している。 開催時期：例年11月末から12月初 開催場所：文化会館 演目数：プロ劇団／1劇団 アマ劇団／7～9劇団 開催までのスケジュール： 5月／実行委員会（予算、スケジュール等確認） 7月～9月／運営委員会（劇団の確認、プログラム作成等） 10月／運営委員会（チケット販売等確認）・チラシ配布 11月／運営委員会（当日の確認等確認）・チケット販売						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）										
人形劇に親しみ、特に実際の社会体験を積むことができない就学前の子ども達が劇に入り込むことにより社会経験を積み、豊かな情操を育て、社会規範を身につける。										
4. 成果（簡易評価は未記入）										
成果指標名称			単位	04年度 実績	05年度 実績	06年度 当初	07年度 要求	08年度 計画	09年度 計画	目標
人形劇まつり来場者数			人	135	1,008	700	700			700
5. コスト										
事業費			計	千円	629	695	800	800		
			国	千円	0	0	0	0		
			県	千円	0	0	0	0		
			地方債	千円	0	0	0	0		
			その他	千円	0	0	0	0		
			一般	千円	629	695	800	800		
正職員人工数			人工	0.7	0.7	0.7				
正職員人件費			千円	5,410	5,471	5,616				
トータルコスト(事業費＋正職員人件費)			千円	6,039	6,166	6,416	800			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）										
○あがっている ●どちらかといえばあがっている ○あがっていない（停滞・低下）			令和2年度、令和3年度については、新型コロナウイルス感染症拡大のため、開催を中止した。 令和4年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催時間の短縮及び入場者を制限し開催した。 令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が第5類感染症に位置付けられ、感染症対策が緩和されたことに伴い、実行委員を中心に感染症対策を考慮しながら、コロナ禍前と同等の内容で開催した。 令和6年度は、令和5年度と同等の内容での開催を企画検討していく。また併せて、令和7年度以降の開催等について、実行委員会で協議を行っていく。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）										
対象動向	維持	類似事業	なし	演じる劇団員、企画運営を行う実行委員ともに高齢化しており、人形劇存続のためには次世代育成が課題となる。						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし							
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり							
成果向上余地	中程度									
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				■改善方向性		●維持 ○見直し ○廃止 ○事業終了				
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）										
人形劇まつりの開催方法、開催場所、内容等について実行委員会での検討を行っていく。 また、実行委員、劇団員が高齢化しており、次世代育成も併せて検討を行っていく。										
■事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）				■備考・特記事項 or 進行管理欄						
平成15年度のプレ国民文化祭を契機に始めた事業である。平成17年度以降は県民文化祭の事業として行っているが、県の助成金は平成23年度で終了した。一方、子どもの教育への関心は年々高まり、また、人形劇を文化として根付かせ、地域づくりに活かしていきたいという声がかかれ、その機運が高まりつつある。										